

1号機 ヒータドレン配管および復水器の フラッシング状況について

2016年 11月11日

TEPCO

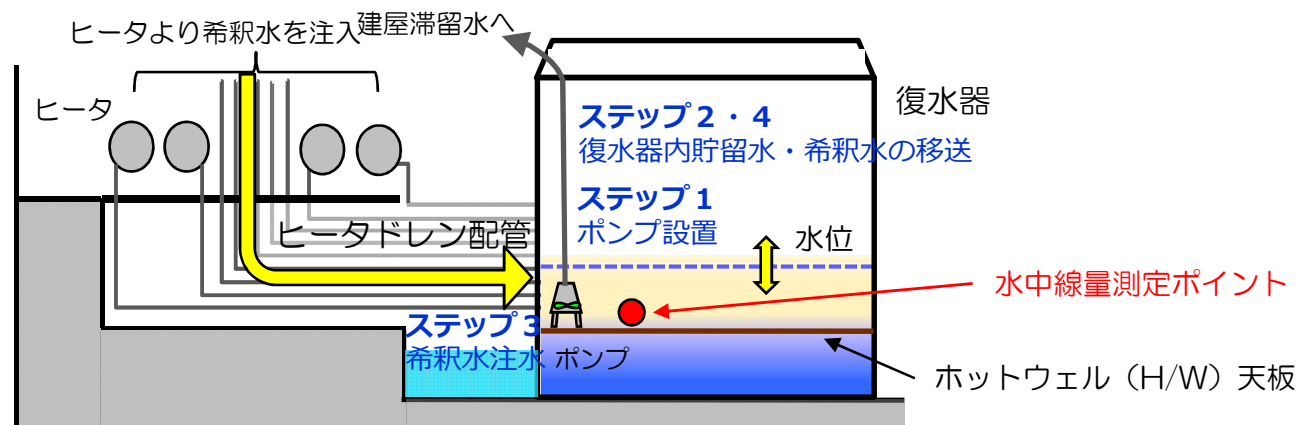
東京電力ホールディングス株式会社

復水器内貯留水の線量推移状況

- 1号機復水器内貯留水についてはホットウェル天板にポンプを設置し、1号機廃棄物処理建屋へ移送（貯蔵量が約5割低減し、約250m³）。
- その後、フラッシング水をヒータドレン配管へ注入し、復水器へ流入した分を1号機廃棄物処理建屋へ移送。本作業を繰り返すことによって、ヒータドレン配管の線量および復水器内貯留水の放射性物質量を低減。
- 復水器内貯留水の放射性物質量は2016年度中に約7割低減させる計画であり、処理状況の参考として確認した復水器内貯留水の線量推移*¹を以下に示す。

復水器内貯留水の線量推移*¹

日	時	2016.3.2	2016.10.21	2016.10.26	2016.11.9
フラッシング水注入量（合計）		－（処理前）	約100m ³	約160m ³	約460m ³
線量率		約670mSv/h	約440mSv/h	約340mSv/h	約120mSv/h



*¹ 復水器内貯留水の放射性物質量は貯蔵量と放射能濃度にて評価予定であるが、高線量環境下であり、放射能濃度を確認するためのサンプリング水採取を回数多く実施することが困難であることから、処理途中の参考値として、水中線量計による復水器内貯留水の線量を確認。水中線量は復水器 B にて確認しており、上記表は水中線量の最大値を記載。

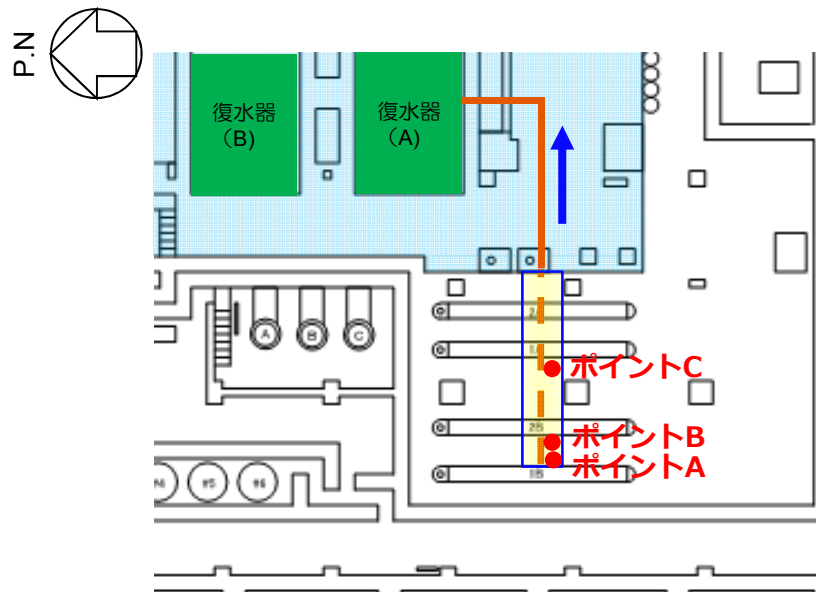
1号機ヒータドレン配管フラッシング状況

- ヒータドレン配管フラッシングによる周辺雰囲気線量の現状の推移について以下に示す。

日 時	雰囲気線量(mSv/h)		
	ポイントA	ポイントB	ポイントC
【フラッシング前】2016.10.14	7.8	34.8	65.0
【フラッシング後*1】2016.10.24	5.3	29.5	62.3
【フラッシング後*1】2016.11.9	4.2*2	29.0	62.1

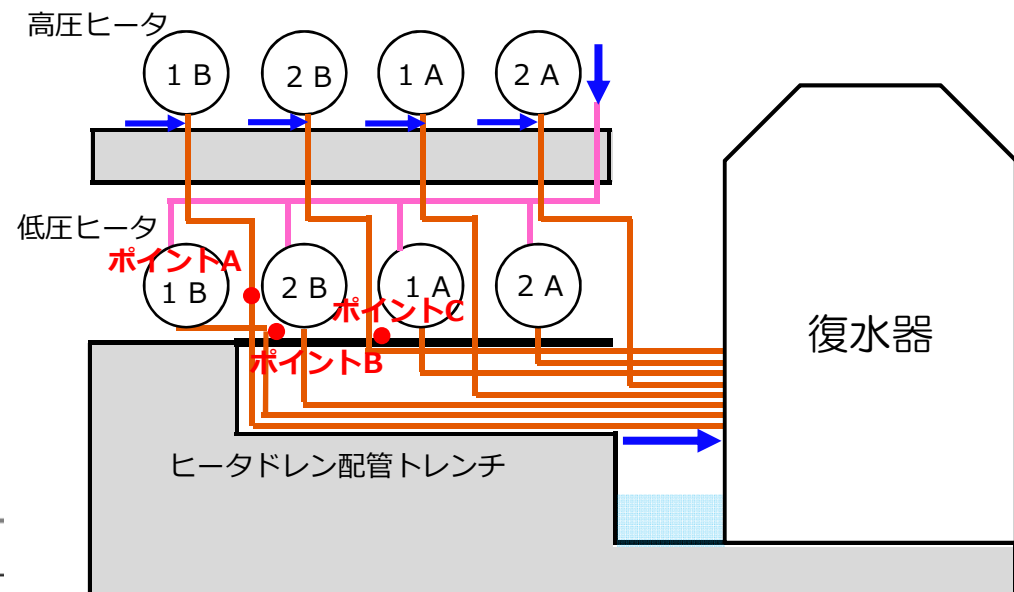
* 1 途中経過

* 2 下部に遮へいを設置した後の値



【1号機タービン建屋平面図】

ヒータドレン配管トレンチ ヒータドレン配管



【1号機タービン建屋断面図】

ヒータバント配管 ヒータドレン配管
 フラッシング水の流れ (各配管を切断しフラッシング水の注入*を実施)

* フラッシング範囲の配管及び低圧ヒータ容量は約80m³